

新宮山彦ぐるーぶ第1820回―1

十二支会・特別例会「羊蹄山」協賛ツアー

その1(6月26日〜6月28日)

◇実施日；平成27年6月26日(金)〜28日(日)

◇参加者；沖崎吉信、生熊敏男、生熊千満子、児嶋道夫、中前 偉

濱野兼吉、大江加予子、大江徳子、畑林清子、川島 功、

前田 正、樋口義也、高階鈴子、高階美根子、奥村順夫、

竹中卓治、田中稔昭、三井幹雄、河野芳宏、石橋哲郎、

石橋隆子、佐藤宏子、椎木 堯。

加藤英彦(羊蹄山特別世話人)

計23(他1名)。

昨秋、新宮山彦ぐるーぶとして、来年の乙未歳に「羊蹄山」登頂を企画するかと提案したところ、干支歳だ！北海道には未だ行っていないので行く！等の参加希望者が10名強あり、十二支会が特別例会開催なら協賛する事にしていった。

第56回乙未歳・十二支会例会が「櫃ヶ嶽」で実施され、前夜祭で加藤英彦氏(日本山岳会・東九州支部長)から特別例会「羊蹄山」が提起され、30名強の参加希望者の挙手があり、加藤英彦・特別世話人として特別例会開催が決定した。

当会ぐるーぶも協賛し、前山(ニセコアンヌプリ)、後山(大雪山・旭岳)に登頂する企画を立案し、費用10万に抑えるため、セントレア空港から格安航空会社、3ヶ月前の格安チケットにするため参加締切を3月上旬とした。

北海道に不案内のため、児嶋宅横の新日本旅行に計画書・宿泊先を相談した結果、関空から北海道に行く方が、セントレア空港へはフェリーを使うと天候に左右され、安いか変らないとのアドバイスがあるが、格安航空は扱わずANA・JALとのこと。

しかし、航空券と宿泊先のキャンセル等の煩わしさもあり、

関空発に変更し、新日本旅行に委託する事にした。

3月上旬に19名の参加者があり、締切後も参加希望者があり、実施迄3ヶ月あり、予期せぬ事からキャンセルがあると想定され22名で締切、以後キャンセル待ちとした。

4月上旬、加藤特別世話人から、前回の特別例会前夜祭会場の「白雲荘」に連絡すると、スキーシーズンだけの営業で5月上旬以後休館との予期せぬ連絡と新宮市の旅行業者に前夜祭会場ホテルを斡旋願いたいと連絡がある。

早速、探して頂いたが、夏期シーズンと土曜日であり、3箇所在ったが価格面などから、バイキング夕食で一般者と同席になるが、十二支会は集合できるとの事であり、ホテルニセコアルペンに決定した。

以後、当方がホテルニセコアルペン営業との窓口になり、十二支会の紹介資料と第56回迄の登頂記録表を送付した。

その成果？和室への変更と格安飲み放題プランが先方から提案があり、前夜祭会場の体裁が整った経緯がありました。又、村吉氏の好意で布製の横断幕を作製して頂いた。

十二支会・特別例会「羊蹄山」参加者は、35名あり、その内新宮山彦ぐるーぶ関係者は、23名の参加になった。

今回、九州地区からの参加者は、加藤氏1人のため、新宮山彦ぐるーぶと同一行動させて頂きたいと申入れがありました。

6月26日(金) 雨

尾鷲・海山組と新宮組15名は、沖崎宅に7時半に合流して、奥村・大江・沖崎車の3台に分乗、中前氏は途中熊野川町で乗車。

初めての「羊蹄山」で気の知れた仲間との山行は楽しみだ。

道の駅「龍遊」でトイレ休憩後、有田ICを経て紀の川SAで石橋夫妻車と合流。大江徳子ちゃんが、関空ターミナルでの車両駐車業者に連絡し、走行と預け方を再確認してくれる。

空港では、三井・河野・佐藤さんも合流して賑やかになる。

梶野氏(白谷林道の鍵渡す)の見送りで、ANA1713便で、2時間足らずで新千歳空港に着く。雲に覆われ窓からは景色が望めず、乱気流により多少揺れた。昔なら約2日かけて行ったのはウソの様である。

空港では、先着の椎木・田中・加藤氏に出迎えられる。

ここでも徳子ちゃんが、レンタカー会社窓口に行き先導してくれる。運転手が手続きのため先発、残りはバスでトヨタレンタカー社に行く、その敷地規模の大きさに驚いた。8人乗り2台と10人乗りの3台に分乗するが、心配した荷が積めた、空港到着からレンタカーで出発するまで約1時間強を要した。

カーナビは、支笏湖湖畔経由の一般道国道36・237・453号線を辿り洞爺湖温泉へ。

小雨で残念ながら遠くまで景色が望めない。昭和新山が見えてから洞爺湖湖畔を通り、洞爺湖万世閣・ホテルレイクサイドテラスへ。

ツアー最初の夕食であり、登頂成功を祝して乾杯、初めて同席の方も多く自己紹介をして仲間意識を高める。



関空にて

自己紹介中の懇親会

懇親会終了

洞爺湖周辺には大きなホテルが多く、夏恒例の毎夜打ち上げられ花火で懇親会を終える。花火で洞爺湖サミットが開催された大きなホテルが山の上に見えた。

行動タイム

新宮(沖崎宅)7:30→11:10 関西空港 12:30→14:20 新千歳空港→トヨタレンタカー15:30→国道36号・276号・453号線・美笛峠経由→17:30 ホテル→18:45 夕食 20:40。(千歳〜104km)

6月27日(土) 曇時々小雨 ニセコアンヌプリ登頂

北海道の日の出は早い、窓のカーテンを閉め忘れて3時半頃より明るくなる事から、洞爺湖周辺を散策する。

今日の予定は、ニセコアンヌプリ登頂である。天気予報では昼頃より雨とのことから、ゴンドラ・リフトを使って登ることも考慮する旨を伝えられ、洞爺湖温泉からニセコ五色温泉へ向う。

昨日来た道を辿り間違いに気付くが、追い越した車は携帯で停車させ、3台のカーナビを同一経由・目的地に徳子ちゃんが設定。

洞爺湖を一周するように国道230号線を辿る。途中、羊蹄山の裾野が見え、天気が良ければ素晴らしい眺望なのに残念だ。

多くの人はホテル前のコンビニで昼食を購入したが、購入していない方もありコンビニへ立寄る予定であったが、1軒を見逃したら登山口の五色温泉に着いたがコンビニが無い、昼食は分け合うことにした。



野宮駐車場にて

尾根のケルン

約1時間歩行後の休憩

途中、ゴンドラ乗り場口を通ったが、曇天だが雨が降っていない、

五色温泉登山口(標高750m)のニセコ野外駐車場へ。登山口で根曲竹の子の採取していたので、話をして見ると竹の子を塩漬けにして保存食にするそうで紀南地方にはこんな竹はない。竹の子を見せてもらおうとアスパラガスの大き目であった。

登山道は、幅が広いが石が多く歩きづらい道だ。約20分で見返り坂分岐(標高855m)へ。尾根沿いに辿るとケルンの積まれた尾根に出るとハクサンチドリや当地にない黄ウツギが目を引く。

約1時間弱歩き、遅れている人を待つ、奥村氏も追いつて来る。

展望台(1065m)附近に出るが、展望は望めない。次第に緩やかな尾根道となり、全員ニセコアンヌプリ(一等三角点:1308.5m)に登頂する。今西式バンザイ後、「熊野修験の碑伝」が置かれ中前導師で勤行する。避難小屋があるが三角点の周りで、弁当などを分け合って昼食。

雲・霧が一瞬無くなり、ゴンドラ・リフトや麓が見えた。

下山する頃から視界が良くなり、一時五色温泉宿や遠くは日本海も望めたが、登山口に着く頃には小雨がパラつく。



頂上手前の登山道

山頂に万歳!

山頂登頂記念撮影

コンビニに立寄り、十二支会前夜祭会場のホテルニセコアルペンに到着する頃には本降りの雨模様。

前夜祭は、飲み放題だが開宴を待ちきれず飲み出す始末。

行動タイム

ホテル 8:00→9:30 五色温泉登山口 9:45→10:05 見返り阪分岐→10:15 山頂迄 1500m 地点→10:30 休憩:10:40→11:15 ニセコアンヌプリ(1308.5m)11:50→13:05 登山口 13:20→14: ホテルニセコアルペン→18:00 前夜祭 20:00 (千歳〜198km)

十二支会・特別例会「羊蹄山」前夜祭

ホテルフロントに行くと、依頼した十二支会受付用テーブルと椅子が準備され、ルームキーが置かれている。折衝窓口担当の浅野 誠係長と名刺交換し準備を始める。

名札、部屋割り表、受付確認表(参加費納入、レンタカー有無、羊蹄山登頂と下山後の交通手段)、羊蹄山資料をテーブル上に揃え置き、新宮山彦ぐるーぷ関係者23名に資料・名札とルームキーを手渡すと、残り11名の参加受付になる。

前夜祭会場への横断幕掲示は、浅野係長の了解を得て、沖崎氏に依頼する。受付は、加藤特別世話人・川島が担当するが、風呂の間に大江親子、畑林さんが着席。



加藤司会者

堀会長挨拶

乾杯の音頭

堀

会長含めた岐阜6名は、レンタカー走行中だが17時過ぎになる連絡がある。九州の日向・山崎さんの状況は、加藤さん連絡するとJRを利用して向っているとの事だったが、結局タクシーで17時半過ぎに駆けつけて、全員35名(十二支会会員15名、ビジタ

120名)が揃う。

定刻18時に加藤特別世話人の司会で、堀会長の挨拶、第56回「櫃ヶ嶽」で苦労頂いた大倉幹事さんによる乾杯で飲み放題の前夜祭が開宴。

明日の羊蹄山登頂連絡事項などについて川島が説明後、テーブル毎に自己紹介が行われた。



あちこちで懇談する前夜祭

我々は奥座敷住い

各地代表の余興となり、沖崎氏は、我々の住んでいる地は、神々の住まいする地であり、京都から見れば奥座敷に居ることになると・・・その後相撲甚句、コキリコ節、石橋さんの新宮節などで場を盛り上げた。



坊がつる賛歌合唱

万歳三唱は一番若い人

万歳三唱！

宴たけなわであったが、早朝出発のため、最後に九州地区の「坊がつる賛歌」で余興が終わり、一番若い大江徳子さんの万歳三唱で前夜祭が20時に滞りなく終了した。(記 前田・川島)

6月28日(日) 小雨 後方羊蹄山(シリベシヤマー8698E)

早朝にホテルの窓から一瞬頂きを見せた後方羊蹄山は、その後の秀麗な山塊を見せることはなかった。

ホテルのロビーで朝食と昼食の弁当を受け取り、とりあえず朝食弁当をかき込み、比羅夫登山口(標高約380m)を6時30分に出発。降り出した雨は止むことなく、天気予報は午後から曇りの予報を覆し、小雨ながらも関わらず既にかなりの混雑である。生

登山口の駐車場は雨にも関わらず既にかなりの混雑である。生熊敏男氏は旧知の友と会う、奥村君は登頂しないことになり、新宮山彦ぐるーぷからは、22名が登頂に挑戦する事になった。



比羅夫登山口駐車場

羊蹄山案内板

7合目

今回は十二支会との合同山行、先頭は十二支会の未歳の大倉氏が会旗を掲げ出発。登山届に空欄はなく届けには記入できず、隊列後方に加わる。

最初は緩やかな登りが続き、エゾマツ、カラマツや低山性広葉樹林帯に生えるエゾイタヤやミズナラ等の中を歩く、歩き始めるとすぐ赤外線センサーが設置され、登山者数をカウントしている。

ペースがゆっくりであり、雨で気温が低いので楽に登れる。最初は1合目ごとに休憩が入り、一合を概ね半時間。時間がかかるが体力を考えれば順当なところである。登りはじめて約1時間2合目の手前左手に風穴が見える。

2合目で休憩、ここから急登が続くダケカンバ、エゾマツ、ノリウツギなどの樹林帯が現れる。古木が落雷や風雪に耐え、曲がりくねりながらもたくましい姿を見せる。特に地上を這うように山の斜面に枝を伸ばしたダケカンバには感動、凄く生命力である。登山路周辺に咲くエゾゴゼンタチバナ、マイヅルソウ、エンレイソウ等の高山植物も種類が多く、今回特にシラネアオイの群落とその花の豪華さに魅入られた。また、サンカヨウの白い花が雨に濡れると透明になる姿も見られ、雨の山なりの魅力があることが分かった。

9合目を過ぎハイマツの中からエゾシマリリスが姿を現し、この山の自然の豊かさも知ることができた。9合目が避難小屋と山頂への分岐で、左周りにジグザグに急登すると中央火口道で、此処から外輪山の比較的緩い登りとなる。



8合目



9合目



二等三角点

9合目の途中、昨日のニセコアンヌプリ登頂時、新宮山彦ぐるーぷのブルズンを着用していた沖崎氏に声をかけて下さった伊賀敷Gの浅田夫妻(真狩口4時半出発)と出会い、持経宿改築寄付の

御礼と改築後の再訪を勧奨し別れた。

森林限界を越えたので風雨が少し強く感じる。

後方羊蹄山には三角点が二つ在りに北山(1843.4m・三等三角点)を経て、そこから少し上ると一等三角点(1892.7m)、そこから5分弱の地点に後方羊蹄山(シリベシヤマ1898m)の山頂があり、岩頭のような山頂で狭い。

佐藤、姉の高階さんが、7合目辺りで登頂を断念したいと申出があったが、京都と岐阜の方が遅れており、十二支会例会の足手纏になつていないと激励し、本人の頑張りもあり新宮山彦ぐるーぷ21名が登頂できた。



羊蹄山一等三角点

中前導師にて勤行

狭い羊蹄山山頂

一等三角点にて今西流山頂に掛ける万歳、「熊野修験」の碑伝(ヒデ)を置き中前導師による勤行(その後中前さんが山頂に行った際に山頂に移動させたとのこと)。ガスが晴れず眺望もなし、また、十二支会の人々とここ山頂で別れる。

その後山頂に向かう人は山頂へ、昼食をとる人は昼食をとり、児嶋さんがコーヒーを入れ振る舞ってくれる。ありがたい温かいものが何よりも御馳走である。気温も低く体調不良を訴える人も出て、川島代表の指示で昼食後女性陣を三井、河野さんが引率し先行下山。

ゴアテックスのカップには通気性があるとはいえ、登りの際に

かいた汗は体温を奪う。化繊の下着もそんなに早く乾くものでもない、体温の低下が気にはなるが、残留組は体力的にまだ余裕がありそうだが、早々に後片付けをして下山に備える。

下山は真狩登山口と2班に別れて行動する予定であったが、天候も悪く同一行動する事になり。全員比羅夫登山口への下山に変更された。山頂に行った人も戻り全員揃ったところで13時30分に下山開始。

残念ながら今回は、当初予定していた今西錦司先生のケルン(真狩下山口と山頂間のケルン広場に在るらしい)確認するということができなかった。



中央火口道分岐

3合目

無事下山！

何はともあれ全員無事下山することができ安堵した。集団登山の難しさやリーダーの重さも十分に認識できた山行で、良い経験をさせてもらった。

4合目で登頂を断念した大江徳子ちゃんは、遅れた浅野氏と一緒に9合目迄登り下山したと下山後に知る。天候が良ければ二人も登れたと思う。

下山すると奥村氏がビニール袋と、温かいコーヒーを用意して待ち受けていて下さり感謝。ドロドロの山靴を洗い、カップをビニールに入れ、宿泊先の定山溪温泉郷の「倶楽部・錦溪」に19時15分頃に到着。食事開始を20時にして貰う。

記録では後方羊蹄山の最初の登山者は、三重県松阪出身の探検家松浦武史郎である。1858(安政5)年旧暦2月4日に登頂を果たし、蝦夷に関する著書「後方羊蹄山日記」の中に、初登頂記が載っている。厳冬期に装備もそれほど十分でなかった当時、登頂を果たした彼の体力と精神力はどれほどのものであったのだろうか。大台ヶ原西大台の開拓に挑んだが成功しなかった。松阪市には松浦武史郎記念館があり、アイヌの人々と交流が行われている。因みに私達は羊蹄山と呼んでいるが、深田久弥は「単に羊蹄山と略して呼ぶことは強く反対する」と記し、「日本書紀」の斉明朝4(658)年に後方羊蹄山と記された歴史的な名前であると強調している。アイヌの人びとは「マツカリヌプリ」「マチネシリ」と呼び、地元では「蝦夷富士」とも呼んでその秀麗な姿を讃えている。北海道を代表する山の一つである。



「倶楽部・錦溪」夕食

行動タイム

ホテル 6:00→6:20 比羅夫登山口 6:30→2合目 7:35→8:30 4合目
 ↓7合目 10:20→8合目 11:00→6合目 11:25→12:05 二等三角
 点↓12:30 羊蹄山一等三角点(1892.7m)12:45→12:50 羊蹄山山頂
 (1898m)13:00→13:05 一等三角点 13:30→6合目 14:05→6合目
 16:10→16:30 比羅夫登山口 16:50→19:15 倶楽部・錦溪

(記 濱野)